

令和6年度

「市民性の育ち記録集 VolⅢ」



【春日東小 地域の大先輩と触れ合おう】



【春日西中 3年間のボランティア活動】



【天神山小 おかし遊び】



【春日南中 市議会にアタック】



令和7年2月
春日市教育委員会

はじめに

春日市は、令和6年度、コミュニティ・スクール導入から20年目を迎えました。

秋祭りや餅つき会、クリーン作戦など様々な地域との関わりをとおして、子どもたちが「楽しい、面白い」等の満足感や、「できた」「やれたぞ」等の達成感を抱いている姿に出会います。また、「自分は伸びている」と向上心の高まりを感じている姿にも出会います。

さらに、地域の行事を実施する際の地域の方の準備や苦勞等に気づき、感謝の気持ちを抱くとともに、次は自分が「恩返し」をしたいという思いを抱いている子どもの姿にも出会います。地域の伝統的な行事に関わる中で、行事に込められた地域の思いや願いを受け止めている姿にも出会います。「恩返し」という子どもの言葉の裏側には、確実に「恩送り」が出来ていることを物語っていると思います。

この姿は、令和5年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」のコンセプトの一つである「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」につながっているものだと考えます。

この「市民性の育ち記録集」の発刊は、本年度をもって終了しますが、引き続きコミュニティ・スクールの充実に向けた取組を進めてまいります。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年2月
春日市教育委員会

目 次

○ はじめに	P 1
○ 目次	P 2
Ⅰ 春日市児童生徒の作文	
(1) 春日小学校	P 3
(2) 春日北小学校	P 6
(3) 春日東小学校	P 9
(4) 春日原小学校	P12
(5) 春日西小学校	P15
(6) 須玖小学校	P18
(7) 春日南小学校	P20
(8) 大谷小学校	P23
(9) 天神山小学校	P26
(10) 春日野小学校	P29
(11) 日の出小学校	P32
(12) 白水小学校	P35
(13) 春日中学校	P38
(14) 春日東中学校	P41
(15) 春日西中学校	P44
(16) 春日南中学校	P47
(17) 春日野中学校	P50
(18) 春日北中学校	P53

ろうの方々の話を聞いて

春日小学校 四年 村井 海咲

わたしは、総合「誰もが暮らしやすい町にするために」の学習で、ろう協会の耳が聞こえない方の話を聞きました。大変だなと思ったことは、周りの声や音がきこえないことです。

周りの声や音が聞こえないと、道路を歩いているとき、周りの音が聞こえず危ないかもしれません。家のインターホンが鳴っても気づかないかもしれません。音や声が聞こえないと想像すると、大変だと思うことがどんどん思いついていきます。どんどん思いつくということは、生活の中で音はたくさんの役割をしているということです。

手話はとても大切な役割を果たしていると思いました。手話で、多くの人とコミュニケーションをとることができます。覚えるのは大変そうだけど、ろうの方々と話せるのなら、手話を覚えて、通訳なしでろうの方々と話してみたいです。



かんしゃの気持ちを大切に

春日小学校 四年 藤本 桜樺

わたしは、色々な人に色々なことを教えてもらいました。「わいわい祭り」や「自転車教室」や総合「誰もが暮らしやすい町にするために」の学習のときです。色々なことを教えてくれたり、楽しませてくれたりしてくれました。

「わいわい祭り」では、たくさんの人が私たちのために、準備をしてくれました。「わいわい祭り」は休みの日でした。PTAの方々、おやじの会の方々は、休みの日なのに私たちのために、祭りでポテトのはん売などをしてくれました。そして、やさしく声をかけてくれました。私たちのためにいっしょうけんめいしてくれました。

私たちのために色々してくださる地域の方やPTAの方々おやじの会の方々、ろう協会の方々への感謝の気持ちを大切に、これからもがんばっていきたいです。



たくさんの人に支えられている学校生活

春日小学校 6年2組 長野 悠大

僕達の学校生活はたくさんの方に支えられています。そんな人達に僕は感謝を伝えたいです。

まず、お父さんやお母さんです。一番近くで僕達を見守り、支えてくれて、毎朝、温かく見送ってくれます。

次に、いつも登校するときに見守ってくれる地域の人です。毎朝、見守ってくれるので安心して無事に学校にたどり着くことができます。

そして、僕達のことを一番に考えてくれている先生方です。先生は、毎日、僕達のために、わかりやすく楽しい授業を作ってくれたり、僕達の小さな悩みでも相談に乗ってくれたりしてくれます。

最後に、オヤジの会や自治会の方々です。僕達が楽しみにしているイベントの計画から実行まですべてをしてくれています。この前のワイワイまつりもオヤジの会などの方が僕達を楽しませてくれました。

このように、僕達の学校生活はたくさんの人に支えられています。これからもいつも支えてくれている人へ感謝の気持ちを忘れず、言葉で伝えていき、残りの学校生活を楽しく過ごしていきたいです。小学校卒業に向かって全力で頑張っていくのでこれからも、温かく見守ってください。



地域クリーン活動を通して

私は、岡本地区の地域クリーン活動に参加しました。岡本地区は、公民館近くの花壇などを掃除しました。身近なところをきれいにすることで、心がすっきりして、これからもきれいに使おうと思うことができました。また、5年生と関わることもできて、これからもっと下級生と関わることもがんばりたいです。

これからは、地域の方や場所を大切にしていきたいと思います。この地域クリーン活動でしたことを生かして、たくさんの方と関わったり、地域を大切にしたりしていきながら、過ごしたいです。

地域クリーン活動を通して

私は、桜ヶ丘地区のクリーン活動に参加しました。桜ヶ丘地区では、桜ヶ丘公園の掃除をしました。掃除をする前は、葉っぱがたくさん落ちていたけれど、みんなと協力して掃除をしたら、公園がとてもきれいになったので、心もすっきりしました。これからも公園などをきれいに使おうと思いました。

これから地域の方や公園などを大切に使いたいと思いました。そのためにも、公園などで遊ぶ時は、ゴミなどを散らかさないようにしたり、地域の人たちとも関わったりしようと思いました。

地域クリーン活動を通して

須玖北地区の地域クリーン活動に参加しました。私は、須玖北公民館の花壇に花を植えました。それが終わったら、児童遊園の雑草をぬきました。

これからは、ゴミを捨てたり、花壇の花をふんだりしないようにして過ごしたいと思います。また、地域でのゴミ拾いなどの活動があったら、やってみたいと思いました。



「地域の中心 公民館」の学習を通して

須玖北はもともと他の地区4つの地区をあわせて「須玖」と言われていたのをはじめて知りました。

公民館へそうじに行った時は、くつばこやドアなど、いろいろなところをそうじさせてもらって、公民館をとてもきれいにすることができました。

これからは、今までよりもいっぱい地域の行事やイベントに自分からさんかをして、須玖北や他の地域のことも知りたいです。

「地域の中心 公民館」の学習を通して

わたしは、自治会長さんのお話を聞いて、春日市についてたくさん学びました。また、他の地域とのつながりや、そうじのときのよごれの消し方も教わりました。自分の住んでいる地域のことを知ることができて楽しかったです。そして、公民館のおそうじに行った時は、ぞうきんで、ゆかをふいておもしろかったです。家でもその知えを生かして、そうじをしようと思います。

わたしは地域の行事にたくさんさんかして、はいひん回収も休まずがんばろうと思います。



「地域の人といっしょにおどろう」の学習を通して

わたしは、秋枝さんが年表を使って教えてくださってから、わかい町「かすが」ふるさと音頭を作った方達は、深い思いを込めて作っていたことに感動しました。この音頭をおどって、みんなも、おどりを教えてくださった方々も、楽しく、元気におどれたと思いました。

これから、秋枝さん達に会ったときは、あいさつをしたいと思います。また、教えてくださったことに感謝をしたいなと思います。この歌詞の思いを聞いて、この思いをみんなで協力したり、大切にしたりしていきたいと思います。

「地域の人といっしょにおどろう」の学習を通して

ぼくは、春日音頭を教えてもらって、春日音頭にこめられた思いや、春日の歴史について学ぶことができました。歌詞には、白水池や婿押しまつりという言葉があり、今でも歌われていることに歴史を感じました。

これから体育発表会で、みんなが春日音頭をもっとうまくおどれるように、がんばっていきます。春日音頭をくわしく教えていただき、ありがとうございました。これからは、積極的に地域行事や、夏祭りに参加していきたいと思います。



地いきの大先ばいとふれ合おう

地いきでお世話になっている人について、調べました。地いきでは、通学路の見まもりたいの人や公民館の館長さんたち、110番の家など、たくさんの人にお世話になっています。そこで、じぶんたちにかかわってくださっている地いきの大せんばいについて、しらべることにしました。

地いきコーディネーターの方は、学校とのれんらくや、先生たちと日ていのちょうせいをしてくれています。時間があるときは学校にきてくれて、みんなのために仕事をしていています。社会の町たんけんではボランティアとして来てくれたのでありがたいと思いました。春日東小のこどもたちのためになることをすすんでしてくれています。

見まもりたいの松おさんは、バスをとめて男の子を守った話をしてくれました。ひっしでバスをとめて、男の子を守った松おさんは、とてもすごいと思ったし、男の子がぶじでいることがすごいきせきだと思いました。見まもりたいのかたは、春日東小のこどもたちの安全のためにすすんでしてくれています。

子ども110番の家の岩本さんは、地いきの方や見まもりたいの人、子ども110番の家の方にあいさつをしてかお見知りになれることで、どんなことがあっても、守ってあげられるので安全だし安心といっていました。わたしも、そのほうが安心だなと思いました。子ども110番の家の方は、春日東小のこどもたちの安全のためにしてくれています。

私は、地いきの大せんばいたちは、わたしたちのことを思って、いろいろな活動をしていています。おせわになっている大先ばいのために、自分ができていることを考えていきたいです。



さぐろう！校区の食べ物屋さん

校区には、くまちゃんラーメンや、リンガーハット、ピザハット、ケンタッキーなど、たくさんの食べ物屋さんがあります。わたしたちは、校区の食べ物さんのひみつをさがりました。

「ふうき」さんは、和がし屋さんです。「はっけんさん」は、地いきの名前（伯玄町）のおかしです。地いきの名前をのこしたいとつけられました。「よめごのしりたたき」は、ミルクまんじゅうです。およめさんが来たときのおまつりで、ずっとこの土地にいてくださいというねがいがこめられています。「むこおしもち」は、春日神社のむこおしまつりのおいわいのおもちです。「お茶々まんじゅう」は、あみ目がとくちょうのおまんじゅうです。57年のれきしあるロングセラーです。「博多かすてら」は、丸いかすてらで、ベストセラーです。コラボしたり、味ちがいがあったりして、とても人気です。一つ一つぜんぶ同じ形で、同じ大きさでした。地いきの行事やまつりのことを考えたり、季節を取り入れたり工夫していることが分かりました。ずっと地いきの人に長く愛されたいという思いやねがいがこめられていました。

和がしをつくっている人は、いろいろな思いやねがいをこめて、一つ一つつくっているんだなと思いました。57年もれきしがあるまんじゅうがあるって、すごいと思いました。



地いきにある食べ物屋さんをしゅざいしたよ

わかばの学習で、大和町にある「ひさや」というコロッケ屋さんをしらべました。しらべたいことが、たくさんありました。コロッケのざいりょうや、おすすめのコロッケ、一日何人くらいおきやくさんが来るのか、いつも気をつけていること、お店がいつできたのか、しつもんしたいと思いました。

入口には、えんぎのいいかざりがたくさんありました。まねきねこと、めでたいです。ざせきが、いっぱいありました。大家ぞくでも、足がふじゆうな人でも、みんなですわることができるように、いろんないすやつくえがあります。子どもがまっているときにあそべるおもちゃや絵本もありました。

コロッケのしゅるいは、かにクリームコロッケと、コーンクリームコロッケがあります。かにクリームコロッケが人気で、かにセットは1500円で、ごはんとみそしるがつきます。ほかにも、かにめしやかにコロッケ、かにのみそしるなど、23しゅるいもメニューがあります。かにクリームコロッケは、かにをたくさん入れているそうです。かには、業者から仕入れることで、よりしんせんなものをお客さんに食べてもらえるようにしています。二日間もかけてつくっているそうです。かにクリームコロッケをつくるのは、たいへんです。

「ひさや」という名前は、店長さんのお父さんの名前が「ひさよしさん」で、「ひさ」に「や」をつけて、「ひさや」になったそうです。店長さんのお父さんが、お仕事をやめて、お昼ごはんが食べられるコロッケ屋さんをつくったそうです。お店の外には、人がよく通る道からかんばんが見えるようになっていました。車でまわることができるよう、ちゅう車場がありました。

「ひさや」さんは、たくさんの方がお店にきてもらうために、いろいろなくふうをしていることが分かりました。



小さなことから始める

ぼくが考える社会を明るくする運動は、身近な地域社会についてです。どうやったら、明るくなるのかを考えたときに思い浮かんだことは、みんなが笑顔になることでした。ぼくが住んでいる地域には、お年寄りがたくさん住んでいます。これは、一緒に住んでいる民生委員をしている祖父から聞きました。また、一人で山口県に住んでいる祖母が、地域での子どもとの関わりが少なくてさみしいと言っていました。

このことから、地域にたくさん住んでいるお年寄りとお年寄りの関わりが増えたと、お互いが嬉しいのではないのでしょうか。

お年寄りは子どもとの関わりが増えたと、やりがいや生きがいを感じ、人とのコミュニケーションの機会が増えます。子どもの場合は、遊んでくれるときの楽しさがあり、親は子どもが安全に過ごすことで安心できます。

このような取り組みをすることで、みんなの笑顔が増え、社会が明るくなれば良いなと考えました。

お年寄りとお年寄りが関わる学校行事や取り組みは、すでにいろいろ行われています。ぼくの学校では、たてわりサポーターや本の読み聞かせボランティアなどがあります。たてわりサポーターは、児童の保護者以外の、地域の人々も参加でき様々な行事のサポートを行います。

こうした取り組みに加えて、ぼくがあつたらいいなと思ったことは、学童の役割を地域でもできないかということでした。学童の職員の数がたりなかったり、学童に入ることができないというニュースを見ることがあります。公民館で、子どもが遊んだり宿題をしたりするのをお年寄りが見守ることでお互いにとってよい関係が作られるのではないかと思います。

また、一人暮らしのお年寄りやひざや腰が悪くて、なかなか出歩くことができない方に、少しでも人と話すきっかけをつくることができたらいなと思いました。登下校のさいに、あいさつなどのちょっとした会話をすることで、信頼関係ができ不審者などが出たときに、とっさに逃げこむことができる安全な場所にもなります。

このように、お年寄りとお年寄りが少しずつ関わりを増やすことで、お互いがうれしくなり、これが社会を明るくするための一つの道筋になるのではないかと思います。



春日市立春日原小学校 第3学年1組

大塚 はな

花植えでがんばったこと

わたしたちは、総合的な学習の時間「大すき春日原」で花植えをしました。

わたしたち3年生は、春になると、りゅうじん池のまわりに花を植えに行きます。ほごしゃの方や地いきの方もたくさん来てくれました。ほごしゃの方や地いきの方に「よろしくおねがいします。」とあいさつをして、花植えを始めました。

わたしたちはもってきた花を協力して植えていきました。花を植えているとき、なかなかうまくできなくてこまっていると、それに気づいたほご者や地いきの方が手伝ってくれました。そして、植え方を教えてもらい、上手にうえることができました。

その日はとても晴れていたなので花植えがおわったあと、すぐに水やりをしました。水やりをしたら、お花が笑っているようにゆれていました。

これからも地いきの人といっしょにお花をそだてていきたいと思います。



春日市立春日原小学校 第3学年1組

村上 湖春

大すき春日原の学習で思ったこと

わたしたちは、総合的な学習の時間で、地いきのことを調べたり、地いきの人たちと会って話を聞いて分かったことをノートにまとめたりしました。

まず、社会科の学習で春日原のまちを探けんしました。春日原はごみが少なく、家やお店がたくさんあることがわかりました。そして、このまちをもっと明るくきれいにするために、りゅう神池に花を植えました。

自ち会の方に植え方を教えてもらったり手伝ってもらったりしながら、植えていきました。

わたしたちが植えたお花を見て、地いきの方が「きれいだね。」と言ってくれると「よかった。」と思います。

自ち会の方たちは「楽しいまち」「明るいまち」「住みやすいまち」をめざしていました。「お年よりから小さい子どもまでつながって、まちをもりあげてほしい。」というねがいもありました。

今年の「秋祭り」や「もちつき大会」は、去年よりもたくさんの人が来ていてみんな笑顔でした。それを見て、わたしはもっと春日原をきれいなまちにして、みんな笑顔になったらいいなと思いました。

これからも、まちの行事になるべくさんかして、まちの人たちと仲よくなりたいです。



〈春日市立春日西小学校〉「地域とのつながり」について

Ⅰ 野菜作り(2年生)

地域の野菜作り名人さんに来ていただき、夏野菜と冬野菜の畝を作ったり、苗を植えたりした。苗植えたあとは、子ども達がお世話をして育てた。

できた野菜はとても立派で子ども達は喜んで持って帰っていた。

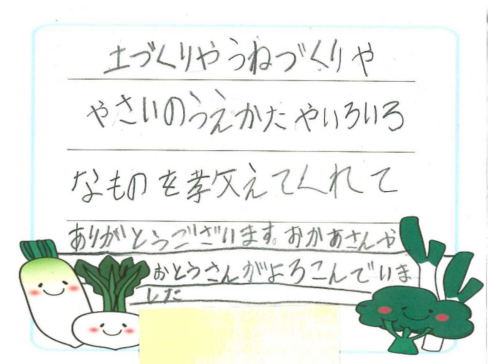
収穫までが終わった今、子ども達はお礼の手紙を書いて感謝の気持ちを伝える準備をしている。



写真①【畝作りをしていただいている様子】



写真②【野菜を収穫している様子】



資料①【子ども達のお礼の手紙】

「野菜を育ててみて」

2年 金堂 みゆ

野菜名人さんと野菜を育てました。最初は名人の皆さんがみなさんが作ってくれたうねに苗を植えました。土がふかふかしていてとても気持ちよかったです。名人さんに苗の植え方を教えてもらいました。苗の根っこは大切に扱うように言われたので大事にもちました。そしてうねに穴をほってそうっと植えました。植えたときはやく大きく育ってほしいなと思いました。

苗植えをした日から毎日、水やりをしました。野菜が少しずつ大きくなっていくのがわかってうれしかったです。収穫するのが楽しみでした。

なすやチンゲンサイを収穫しました。収穫のときも名人さんに収穫の仕方をやさしく教えてもらって収穫しました。チンゲンサイを持って帰って食べました。とてもおいしかったです。

野菜名人さんたちにたくさんお世話になったのでお礼の手紙をかきました。苦手な野菜も食べられるようになりました。ありがとうございました。

○野菜名人さん(地域の方々)に支援していただいたことで子ども達は地域の方々に感謝する気持ちをもつことのできた。

2 上白水ふれあい秋祭り(3年)

11月3日(日)上白水文化祭に3年生有志が参加。地域の方々の前で運動会の表現「花笠音頭」を披露した。昨年度に引き続き自治会長さんから出演依頼の声をかけていただき本年度も堂々と発表することができた。多くの拍手をもらいうれしそうな子ども達の姿が輝いていた。



写真③【上白水秋祭り当日の様子】

「ふれあい秋祭りに参加して」

3年 北里 麻衣子

わたしは、11月3日の文化の日に上白水のふれあい秋祭りに参加しました。

はじめに、先生から「上白水の秋祭りで花笠音頭を発表します。参加したい人は参加しましょう。」と言われたとき、はじめてでもしろそうと思いました。

運動会でも踊っていたので踊りには自信はあったけど運動会と違って踊る場所とお客さん(地域の方)との距離が近くてびっくりしました。そして緊張してきました。

西小3年生の出番になりました。踊りがはじまると地域の方々が手拍子をして笑顔で見てくれていたのでわたしも自然と笑顔になりました。

終わったとき、たくさんの拍手をもらったり地域の方々が喜んでくれていたりしてとてもうれしい気持ちになりました。

○上記取組の効果として、地域行事に参加したり、地域の方々とふれあったりすることで子ども達も地域の方も笑顔が溢れていた。取組の充実感が市民性の育ちにつながったと考える。

「あいさつ推進」のための取組について

本年度も、WBC(西中ブロックコミュニティ・スクール)の重点目標として、「あいさつの推進」を掲げ、3校合同で取組を行った。本校の取組内容は以下の通りである。

1 「小中合同あいさつ運動」の取組

〔毎月第1月曜日7:45~8:00〕

西中の生徒会の生徒が毎回率先してすばらしいあいさつをしてくれている。児童会運営委員も 参加することで中学生の姿を模範に、ハキハキとした声で相手の目を見ながらあいさつを行うようになった。



写真④【小中合同あいさつ運動の様子】

2 WBC(西中ブロックコミュニティ・スクール) 合同研修会 [12/11]

春日西中・白水小・本校の児童・保護者・教員・地域が一堂に会し西中ブロック重点課題Aあいさつ、B防災、Cキャリア教育について各校の取組を発表した。本校は、あいさつ推進の取組であいさつシールカードの取組や小中合同あいさつ運動の成果と課題を発表した。その後に地区別に協議した。各校の発表について質疑応答したり、少人数グループごとに協議した。それぞれの役割や3校の取組のよさなどを共有したりすることができた。



写真⑤【西小発表の様子】



写真⑥【地区別話合いの様子】

児童運営委員会6年生の感想

6年 金本 成美

あいさつシールカードの取組をしたら、あいさつをしてくれる人が増えました。そして、取組が終わった後も元気よくあいさつを返してくれる人がいて気持ちがよかったです。

6年 奥平 稀子

小中合同あいさつ運動では、中学生と一緒にやることで明るくにぎやかになりました。低学年が中学生とハイタッチしていて、笑顔のあいさつがふえてよかったです。

6年 系数 李都

WBC合同研修会に参加してみて、西小で行っている取組を発表して、第3者目線からの疑問や良い所が聞けたのでよかったです。

○上記取組の効果として、多くの児童が、あいさつの大切さやよさを実感し、学校・家庭・地域にあいさつを広げていこうとする意欲を高めることができ、市民性の育ちにつながったと考える。

市民性を育む教育活動と児童の感想

本校では、地域・保護者と教師、児童が一体となって取り組むことを通して、子ども達の市民性の育ちを教育活動の一つとして位置づけている。

児童代表が参加した学校運営協議会の中で、内容を吟味し、その結果（地域・保護者の皆さんに支えられて実施できていること）を児童会を通じて全校児童に周知している。また、内容も校区の歴史に触れる学習活動を位置づけ、事前に現地に足を運んで調べたり、まとめたり、発信したりする総合的な学習活動となっている。以下に、4名の感想を紹介する。

題名「奴国ウォークラリーで学んだこと」 5年 篠原 雪乃

奴国ウォークラリーでは、縦割り班で協力して、役割に分かれて春日市の歴史について学びました。5年生は、3年生の道案内のサポートをして、「中の宮」と「下の宮」のクイズを班のみんなに出しました。学校の「すぐのこ学習」の時に「中の宮」について調べたり、同じ班の子と話し合って練習したりしたのでクイズを出すときに上手く行ってよかったです。

来年は、最上級生になるのでみんなのお手本になれるようがんばりたいです。

題名「奴国ウォークラリーを振り返って」 6年 武末 陸翔

老松神社にある名前が書いてある石碑を見たとき、自分と同じ名字が結構たくさん書いてあってビックリした。自分たちで調べたことをもとにクイズを作りました。その中で、初めて知ったことがたくさんありました。がんばってクイズを作ってよかったです。

老松神社の説明をするときにはっきりとすらすらと説明できてよかった。「中の宮」の説明を聞いて、鳥居だけでなく神社の上にも桜のマークがあることを初めて知った。最後は班のみんなと楽しくお弁当を食べることができました。

題名「奴国ウォークラリーの感想」6年 大坪 友和

私はまず、開会式で「引率の方々への挨拶」をするという集会委員会の役割がありました。全校のみんなやたくさんの地域・保護者の前でいうのは、とても緊張しましたが自分からしたいと立候補した役割だったので、「もうちょっと大きい声を出せばよかった」などの心残りを残さず、やりきることができました。

縦割り班で活動することを通して、これまであまり関わったことがなかった2年生の女の子との交流もできて、仲良くなれて良かったです。

題名「奴国ウォークラリーで学んだこと」6年 塩川 結香

私は、このウォークラリーでこれからも使っていきたいポイントを二つ見つけました。一つ目は下級生が並んでくれない時や並ぶ場所を忘れている子がいるときの方法です。私は、こんな時、「番号！」と号令をかけます。すると、「1, 2, 3,・・・」と声を出しながら並んでもらいます。

二つ目は、途中で「トイレにいきたい。」といわれないようにする方法です。私はこの時、「本当に行かんでいいと？」と圧をかけます。すると、「じゃあ、行っとうかな。」と言ってくれます。この二つのポイントを使って楽しく活動できました。



【神社でクイズを出す様子】



【閉会式でのお礼の挨拶】

「地域コミュニティで行う『あいさつデー』」

春日南小学校では、あいさつを広げるために、月に2回、1日と15日に「あいさつデー」の取組を行っています。

コミュニティ委員会では、全校児童が進んであいさつできるようになるために、「あいさつすごろく」の制作や「あいさつデー」の放送での呼びかけなど、様々な活動をしています。わたしは、あいさつを広げるためには、あいさつ運動をすすめるコミュニティ委員会が中心となって、呼びかけや元気なあいさつをしていくことが大切だと考えています。そこで、「まずは、自分から、地域や学校、家でも元気なあいさつをしていこう。」と「あいさつデー」以外の日も、進んであいさつするようにしました。地域みんなであいさつを進んですることで、コミュニケーションがとれて、あいさつをした側もされた側も気持ちよくなるものだと思います。地域にあいさつが増えると、明るい町づくりにもつながっていく気がします。

これからも、率先して相手が気持ちよくなるようなあいさつをつづけていきたいです。



「人権を大切にする取組」

6年生になって、人権についての学習をたくさん行いました。特に社会科では、「基本的人権の尊重」の意味や大切さを学び、春日市から発行されている人権啓発冊子「ひまわり」について知りました。「ひまわり」は毎年発行されていて「インターネットと人権」や「SDGs」、「さまざまな人権課題」など、身近な人権について取り上げていて、人権のことが、読むごとに少しずつ理解できたような気がしました。わたしたちが住んでいる春日市は、人権を尊ぶまちづくり実現のために、冊子や相談窓口など、様々な取組をしているんだなと気づきました。その中の一つで人権標語の取組がありました。わたしはみんながもっている優しさのことを伝えたいと思い「見つけよう 一人一人の 優しさを」という標語を考えました。だれもが安心できるまちづくりの一步として、これからも自分ができることから行動していきます。



「夏まつりで感じた絆」

ぼくは、夏休み中、紅葉ヶ丘の夏まつりに参加しました。ステージの出し物や屋台がたくさんあることを聞いていて、とても楽しみでした。ぼくも、ステージの出し物でダンスと歌を発表しました。最初は少し緊張したけど、ダンスと歌で参加しているうちに、とても楽しくなり、周りの人と一緒に盛り上がり、一体感を感じてきました。たくさんの地域の人たちが夏まつりを準備して、協力して楽しいおまつりにしていることで、絆を深めていることが実感できました。地域の人たちが自分たちの地域を楽しく住みやすいところにするために、がんばっていることに気づきました。ぼくも地域の一員として、これから地域の行事にどんどん参加していきたいと思いました。



「理想の大和町地区」

私が住んでいる大和町地区は、一言で言うと「地域の方たちとの関わりがある町」です。例えば、12月に行われた餅つきでは沢山の人が参加したり、夏祭りやバスハイクなど多くの人と関わる機会が多かったりと、今年も地域の方との交流がたくさんできたと思います。そんな交流ができる行事を、中心となって考えたり準備したりしてくださっているのは、大和町地区自治会長の藤井さんです。

自治会長の藤井さんは、みんなとの関わりを増やす行事をたくさん準備してくださっています。大和町地区は、大谷小学校の他の地区と離れた町だけれど、少し狭い町だからこそみんなと顔見知りになります。そして、藤井さんが中心となって用意してくれる地域行事がきっかけで、友達になることが多いです。他にも、公民館に行くと藤井さんは必ず笑顔で迎えてくださり、最近の調子を聞いてくださいます。また、「どんな行事をやりたい？」と聞いて、私達がやりたいことを優先的に考えてくださいます。藤井さんの「大和町地区のみんなへの思い」が、地域の方どうしの交流へつながっていると思います。

私は、2年続けてコミュニティ委員会に入り、今年度は地区リーダーになりました。そして、藤井さんがいつもしてくださっていることが、実はとても大変なことだと感じることができました。例えば、部伍会のみんなで作った夏祭りのポスターを私達が大和町のいろいろな場所に貼りに行きました。とても暑い日で貼る場所がたくさんあって、とてもたいへんでした。ポスターを貼るだけでたいへんなのに、夏祭りではみんながしたい屋台ができるように考えてくださって、藤井会長は毎年こんなすごいことをしているのだと驚きました。このように、いろいろなことをやってくださっている藤井会長と2年連続で一緒に活動ができてよかったと思いました。

こんな素敵な大和町地区をもっともっといい町にしていくために、私はクリーン作戦や資源回収など、たくさんの行事に参加しました。みんなが参加してくれたおかげで、今年度の大和町地区のスローガンでもある「たくさんふれあうぞう」が達成できて、理想の町になっていると思います。私は地区リーダーになったことで、地域の方々のありがたさや、大和町地区のみなさんが、私達をどれだけ愛してくれているのかが分かりました。大和町地区は、いろいろな方々との関わりが多くて、本当に仲のいい地区です。中学生になっても、この町との関わりをもっと増やして、行事にもたくさん参加していきたいです。



「僕の大好きな大谷地区」

僕は、大谷地区が大好きです。なぜなら、大谷地区は秋祭りやクリスマス会などの地域の方と交流できる行事がたくさんあるからです。

僕は今年度もコミュニティ委員会に入り、地区リーダーになりました。そして、今年度の大谷地区のスローガンを「笑顔いっぱいにするゾウ！！」にしました。大谷地区のみんなが仲良くなって、笑顔いっぱいの素敵な地域になってほしい！という願いを込めて、このスローガンを作りました。

秋祭りでは、昨年のレクリエーションを参考にして、○×ゲームとジュース早飲み大会をしました。○×ゲームに向けて、みんなが分かりやすいように去年の問題を参考にしてそのまま出したり、ちょっとだけ変えて出したりと、工夫しながら準備しました。また、ジュース早飲み大会に向けて、大谷地区自治会長の多田さんや他のコミュニティ委員と話し合っ、景品やジュースの分量、司会の言葉などをできるだけ自分たちでできるように考えたり準備をしたりしました。

そして迎えた秋祭り当日、レクリエーションに来てくれた人は、去年はおおよそ100人ぐらいだったのですが、今年は30人弱でした。悪天候だったので仕方がなかったのですが、悪天候の中でも来てくれた人が楽しんでくれていたので、約1ヶ月半がんばって計画した甲斐があったなあと思いました。

レクリエーション以外にも、秋祭りではおみこしや屋台、ステージコーナー、抽選会など、楽しいことが盛りだくさんでした。雨が降る中、多くの人に参加し、お年寄りから小さな子供まで、地域みんなが笑顔で楽しそうにしていました。

僕はコミュニティ委員会に入り、人の前で堂々と発表する力や全体に届く声を出すことを、さらに身に付けることができたと思います。そして何より、このコミュニティ委員会に入ったからこそ、地域の行事にたくさん触れ、地域の方がどれほどがんばって行事を成功させているかが分かりました。僕は中学生になっても、地域の行事に参加しようと思います。その時に、ただ参加して「楽しいなあ～」と思うだけではなく、「地域の方が僕たちのために考えてこの行事を計画してくださっているから、感謝しながら楽しもう。」という気持ちを持ち、自分にできることをしながら参画していきたいです。



「地域のために」

小倉東地区のスローガンは「あいさつでつながるゾウ！」です。このスローガンは、小倉東地区をあいさついっぱい町にすることで地域の方とつながり、みんなの笑顔を増やしたいという願いを込めて決めました。

小倉東地区では、地域の方々がぼくたちのために、朝早くから横断歩道などに立ち、登校中にあいさつをしたり話しかけたりしてくださっています。そして、ぼくたちの安全も守ってくさっています。ぼくは、いつもこんな朝早くから見守ってくさっていて、とてもありがたいと思います。その旗当番の方にあいさつをすることは、1年生にでも取り組むことができるので、それをきっかけに地域全体にあいさつをあふれさせることができると考え、スローガンにあいさつを入れました。

また、大谷小学校では「あいさつ運動」という活動を行っています。このあいさつ運動は、コミュニティ委員会が毎週金曜日に7時45分から校門に立って、あいさつをする取り組みで、何年も続いています。僕は5年生の頃からコミュニティ委員会に入っていて、この取り組みのことを最初はただのあいさつだとは思っていませんでした。しかし、昨年度のコミュニティ委員の6年生のやる気や、あいさつをされて嬉しそうな雰囲気になっている友達を見て、僕もやる気と責任感が強くなっていきました。そこから、大谷小学校にもあいさつが増えたことで、笑顔も増えたと思います。このあいさつがもっと地域にも広がっていくようにがんばります。

また、「あいさつでつながる」ことに加え、地域の行事に自主的に取り組み、「地域の人とのつながり」を広げたり深めたりすることができるようになりたいと思いました。コミュニティ委員として地域に関わる行事の1つに、秋祭りがあります。昨年度は夏祭りに向けて、1度しか話し合いをしていませんでしたが、今年度の秋祭りは数回にわたって地域の方と話し合いをしました。話し合いをしていくうちに、小倉東地区のコミュニティ委員会のやる気や高重さん（自治会長さん）のサポートの力強さを実感しました。

秋祭り当日は、公民館の方などがマイクを設定してくさったり、会場をセッティングしてくさったりして、秋祭りを盛り上げてくさしました。今年度から夏祭りが秋祭りになり、昨年度と比べると違うところもありましたが、5年生と協力してなんとか無事に終えることができました。秋祭りはたくさん地域の方が参加したことで、たいへん盛り上がり大成功でした。

秋祭り以外にも、クリーン作戦や資源回収を呼びかけたら、小さな子供から大人までたくさん参加し、地域のつながりを感じました。コミュニティ委員になる前は、地域の行事に参加する側だったけれど、行事を作り上げる側になると、秋祭りやその話し合いなどで、地域の方々が小倉東地区をよくするためにたくさん活動してくさっていることを実感しました。中学生になっても、地域の行事に参加して自分にできることをし、つながりを大事にしていきたいです。



春日市立天神山小学校の実践

第1学年「むかしのあそび」

第1学年は、地域連携カリキュラムにおいて、自分の住んでいる地域の方を「昔遊び名人」としてお招きしている。そして、こまやけん玉、あやとりやお手玉など、昔の遊びを一緒に楽しむことを通して、地域の方と触れ合っている。

.....

第1学年1組 はら ゆうま

こまの あそびかたを めいじんに おしえてもらいました。2かいできて たのしかったです。

第1学年2組 しおつか さな

あたらしいこつを つかんで いっぱい いろいろなことを おしえてもらったので、こんど また きてほしいです。

第1学年3組 ふじい ことの

けん玉のもちかたが えんぴつと おなじもちかただったから、びっくりしました。それに目がきらきらしました。

第1学年4組 ありた そうすけ

むかしあそびめいじんに おてだまを おしえてもらいました。二つおてだまは こうごに うごかすことが わかりました。三つおてだまを がんばりたいです。



【名人とけん玉と一緒に】



【名人とあやとりと一緒に】

春日市立天神山小学校の実践

CS委員会「地域とつながる、みんなとつながる取組み」

本校のCS委員会では、月ごとの挨拶運動を行ったり、地域での活動に関するポスターを作ったりしている。

今年度の運動会では、地域の方をお招きして、春日に伝わる音頭を踊ることを通して、地域の方と関わる事ができた。地域とともに生きていこうとする子ども達を育てている。

.....

春日市立天神山小学校 第6学年1組 外尾 香里菜

私は、CS委員会の委員長として、特に大切にしたいことがあります。それは、挨拶です。

天神山小学校では、4A運動を行っています。CS委員会では、みんなで話し合い、「大きな声で挨拶をした方がいいよね」となりました。そして、みんなでポスターを作り、活動したことで、地域にも挨拶を広げることができました。とてもよかったです。

また、運動会では、学校のみinnで春日音頭を踊りました。運動会の練習では、地域の方が来てくれました。朝、早かったのですが、地域の方と「一緒にがんばりましょう。」と話すことができ、輪になって一緒に踊ることができました。

今後は、もっと挨拶が広がるように活動したり、もっと地域の行事に参加をしてもらえるようなポスターを作ったりしたいです。



【CS委員会での練習】



【運動会での全校表現】

春日市立天神山小学校の実践

第4学年「地域の活動に参加して」

本校では、毎月1回、健康カレンダーを作成し、全家庭に配付している。このカレンダーは、地域コーディネーターが中心となって作成しており、地域の行事や児童の下校時刻を記載している。ホームページにもアップしており、学校と家庭、地域とをつなぐ大切なツールとなっている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

春日市立天神山小学校 第4学年1組 丹原 詩衣奈

私は、白水池の地区に住んでいます。そして、クリーン活動やお祭りなど、地域のいろいろな行事に参加しています。

クリーン活動では、夏休みに入る前に、公民館などをきれいにしました。やっぱり、きれいにした方がいいなと思いました。それは、公民館は、たくさんの人が使う場所だからです。また、お祭りでは、たくさんの人が集まりました。ステージで出し物をしたり、お店があったりして、とても盛り上がりました。楽しかったです。

私の家の近くには、白水池の地区をまとめている方が住んでいます。いつもあいさつをしたり、おしゃべりをしたりして、とても楽しいです。

これからも、地域の行事には、参加していきたいです。



【白水池地区 いもほり】

天神山小学校運営協議会作成
「地域ぐるみの健康づくり」
健康カレンダー
令和6（2024）年

12月
師走（しわす）

天神山小学校運営協議会作成
「地域ぐるみの健康づくり」
健康カレンダー
令和6（2024）年

年 組 名 前		家族のめあてをつくりましょう	
12月		今月のめあて	
たくさん笑おう	家族で		
かしこい顔	家族で		
やさしい心	家族で		
食べる力	家族で		

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 委員会活動	4 てんぐたんまつり	5	6	7
8 天神山地区 清掃活動	9	10 クラブ活動	11 てんぐたんまつり	12	13	14 天神山地区 清掃活動
15 天神山地区 清掃活動	16 14日の代休	17 てんぐたんまつり	18 ウォーク大会	19 ウォーク大会	20	21 天神山地区 清掃活動
22 天神山地区 清掃活動	23	24 冬休み開始	25 冬休み開始	26	27	28 学校開庁日
29 学校開庁日	30 学校開庁日	31 学校開庁日	児童作品公民館展示会 天神山・白水池地区のみ 12/2（金）～12/15（土） ※詳細については案内板をご覧ください。			

【健康カレンダー（12月）】

【健康カレンダー（12月）】

コミュニティ委員長として

私はコミュニティ委員長として、大きく二つのことを頑張りました。

一つ目はあいさつです。委員長として「あいさつはみんなにしなきゃ！」と思い、苦手なあいさつをするようになりました。あいさつが苦手だった理由は、相手の反応が気になってしまうからです。「おはようございます。」と言っても、無反応だったり、気がついてくれなかったりしたら恥ずかしいと思ってあいさつに苦手意識がありました。登校していると毎日あいさつをしてくれるおばちゃんがいきましたが、なかなかあいさつを返すことができませんでした。そんなタイミングでコミュニティ委員会に入りました。委員長にもなりました。そこで、委員長になったんだから「あいさつをしよう！」と思って、いつものおばちゃんに「おはようございます。」と言えたとき、とてもすっきりしました。おばちゃんも喜んでくれてとてもうれしかったです。

二つ目は地域行事にできるだけ参加し、地域の方とつながりをもつことです。1～5年生の時までは、地域行事に関心などありませんでした。でもコミュニティ委員会の委員長になって、コミュニティ委員会だよりを書くことを探しに行こうと思って、平田台地区の秋祭りのダンスに出てみました。練習は大変だったけど、地域みんなの前でダンスをし、みんながはくしゅで迎えてくれて、終わった後みんなきゅうりとかみかんをくれたりしました。その人とは今でもつながりをもっています。地域の人とのあいさつも増えました。



地域行事に参加したこと

ぼくは、令和六年度初めてコミュニティ委員会に入りました。地域とのつながりを深めるということで、いろいろな地域行事に参加していきました。まず、平田台、春日、春日公園の夏祭りや秋祭りに参加しました。ラムネ早飲みやいろいろなゲームを友達と行いました。その中でラムネ早飲みを始める前、地域の方々がラムネを用意したり、声をかけたりしていました。次の日の朝も、集まって祭りの片付けをしていて、地域の方々が祭りのために頑張っていることを感じました。

次に、クリーン作戦に参加しました。お父さんと一緒に行くと、朝八時にもうすでにたくさんの方が集まっており、大変じゃないのかなと思いました。公園は落ち葉がたくさん落ちていて、たくさん人がいたけれど、かなり大変でした。自分は、公園の外側をやっていて、九時になり作業が終わると、すなだけしか見えなくなっていて、みんなでがんばったことが身にしみました。八時から九時まで自分でもおどろくほどあっという間に終わってしまいました。

ぼくは、今年を通して、今まではただ楽しいだけの祭りやきれいにするクリーン作戦が、地域の方々が子どもたちのために、地域をきれいにするために大変でも頑張っていることが分かりました。一年前まではコミュニティ委員会とはどういうものかがよく分かっていなかったけれど、今はみんなで地域のために頑張ってつながっていくものだと分かりました。それを分かっている人が増えるといいなと思います。



コミュニティ委員会からつながる

私はコミュニティ委員会に入って、コミュニティ委員会は地域をつなぐ委員会なんだと、改めて思いました。コミュニティ委員会として、地域の行事に進んで参加したりと、いろんな人との関わりなども意識しながら活動しました。学校内の放送などや朝の昇降口の前の場所でも、今行われている行事などを学校のみんなに伝えました。

また、春日公園で行われた「あんどん祭り」では、たくさんのきれいなあんどんのライトアップ、たくさんの屋台などと、地域の方、自治会の方などが協力し合って作ってくれた祭りだと思うと、すごくありがたく思いました。「いろんな人が1つの祭りに協力し、今まで続けてきたんだな」と思うと感謝の気持ちが強くなりました。ほかにも、学校で行われた「春日野まつり」も、生徒の保護者や、いろんな人が協力したので、とても楽しく感じました。

クリーン作戦に参加したとき、町がどんどんきれいになっていくのを見て、とても気持ちの良い気分になりました。これからも、できるだけ市の行事に参加し、春日市のためにできることをしていきたいです。



日の出小学校 6年 古賀 千遥

題名「心がポカポカしたサロン」

今日、地域の方とふれあって、とても心がポカポカしました。最初の自己紹介のときには、「何をしゃべったらよいかな」と少し心配だったけど、マッサージをして「よかったよ！」と言ってくれた笑顔がとても嬉しかったです。

その後、おしゃべりをしたり、遊んだりしているうちに、緊張がほぐれてきて、いつのまにか自然とおしゃべりをすることができ、仲も深まり良かったです。サロンがあると知った時は、「楽しみだな」としか、思っていなかったけれど、サロンに近づくにつれて、「本当に間に合うのかな」と焦ってきました。

さらに、すこし苦手だった折り紙あそびになり、「ちゃんと教えることができるかな」と心配と焦りの気持ちが高まりました。でも、「地域の方に恩返しをする」ため、昼休みなどを使って練習しました。当日は、上手に折り紙の折り方を一緒に教えることができ、自分の苦手も乗り越えることができたので、良かったです。

これから私は、中学生になっても、小学校のサロンで結んだ絆をこわさないように、地域の一員として、あいさつをしたり、地域の行事に進んで活動したりして、これからも温かい日の出町をつくりたいです。



日の出小学校 6年 黒岩 陽咲

題名「強いきずなと楽しい恩返し」

私は、このサロンを通して、5年生のときよりも強いきずなを地域の方と
もてたと思います。そして、ちゃんと楽しい恩返しができました。理由
は3つあります。

一つ目は、真剣に参加したからです。へらへら参加していたら、地域の方
が不快に感じられるかもしれないけど、最後の方に「楽しかった！」と
言っていたでいて、とてもよかったと思いました。

二つ目は、地域の方からの声かけです。私が自己紹介したり、マッサー
ジしたりしたときに、Mさんが「マッサージありがとう、たいへんでし
ょ」と言っていたでいてうれしかったです。

三つ目は、楽しくゲームできたことです。私の班では、ババぬきと的あ
て遊びの準備の時、ボーリングのような形だったけれど、二人のつもりが
四人だったので、急きょ形を変えてしました。でも、地域の方がとても楽
しそうにされていて、うれしかったです。ババぬきも最初私たちも合わせ
たりして、2回目は地域の方だけでしてもらい、私たちはサポートしまし
た。とても楽しそうにしてくださったので、私たちもうれしかったです。

このことから、私は強いきずなをもてて、楽
しい恩返しができました。またたくさんの地
域の方と関わっていきたいです。



日の出小学校 6年 山本 依奈

題名「地域の方に恩返しすることのよさ」

私は、今日のふれあいサロンを通して、班のみんなと協力して、ふだんお世話になっている地域の方々を笑顔にし、恩返しすることのよさに気づくことができました。

なぜかというと、輪投げやトランプをしたときに、地域の方々が笑顔で楽しんでもらったり、「やさしさにつつまれたなら」や「校歌」のプレゼントをしたりすると、「ありがとう」や「たのしかった」と言ってくださったからです。

私は特に地域の方とお話をする事が多かったので、地域の方が毎日の楽しみを教えていただいたり、私のことを知っていただいたりして、たくさん交流できたので、うれしかったです。地域と私たちはおたがいに助け合うことが大切だと思います。

そして、私はこれからも地域のために活動して下さっている地域の方々に会ったら、日頃の感謝の気持ちを伝えたり、地域の行事に参加したりして、恩返しをしたいです。



春日市立白水小学校の記録①

第4学年地域連携カリキュラム

6月実践 総合的な学習の時間「地域のごみをへらし隊」

春日市立白水小学校 第4学年2組（ 山内 柚花 ）

地域のごみ減らし隊

私は、総合的な学習の時間の「白水小地域のごみ減らし隊」という学習を通して、地域のごみを減らすために、自分にできることをやりたいと思いました。

そう思ったきっかけは、下校中にたばこや飲み物のごみ、コンビニエンスストアのごみなどが、たくさん落ちていたことがあったからです。そのとき、私は、「なぜポイ捨てをするのだろう。」と疑問に思いました。だから、この学習で、地域のごみを減らせたらいいなと思いました。

まず、初めに、地域にごみがどのくらい落ちているか調べるために、地域清掃に出かけました。地域清掃では、白水ヶ丘中央公園や、天神の木公園などを回りました。また、公園に行く途中の道路でもごみ拾いをしました。特にごみが多かったのは、植え込みの下や公園です。他にも、ごみ箱から、ごみがあふれていました。そんな様子を見て、私は悲しくなりました。そして、少しでも地域がきれいになってほしいと思いました。

次に、白水ヶ丘自治会長さんに、学校に来ていただき、地域に落ちているごみについてどう思われているのか話を聞かせてもらいました。会長さんは、毎日地域を見回ってくださっているそうです。そんな会長さんから、

「掃除をしても、ごみがなくなるから、困っている。」

と、話を聞きました。その話を聞いて、「掃除をしても、まだポイ捨てをする人がいるんだな。」と思って悲しくなりました。そして、会長さんから、

「地域のごみを減らすために、協力してほしい。」

と言われました。だから、私は、全力で協力していきたいと思いました。

その後、クラスでどうしたら地域のごみがなくなるのか話し合いました。私たちのクラスでは、地域へのポスターをかくこと、回覧板で呼びかけを行うこと、白水小学校のみんなへ呼びかけをすることの3つのことをすることに決めました。その中で私は、ポスターをかくことにしました。

役割分担が終わった後、班の友達と話し合っ、ポスターの内容を考えました。地域にごみをポイ捨てる人がいなくなるようにという願いを込めて、ポスターに「ポイ捨て、ダメ! ぜったいに」という文字を書きました。このポスターを見た人がポイ捨てはだめだという意識をもって生活してくれたらうれしいです。

私は、ポイ捨てがなくなると聞いたときには、とても悲しかったですが、私たちの活動を見てくれた人が、声掛けをして、ポイ捨てが減っていくとうれしいです。私も、友達がポイ捨てをしていたら、声をかけて、さらにパワーアップした「地域のごみへらし隊」になりたいです。



春日市立白水小学校の記録②

第5学年地域ボランティアとの関わり「登下校見守り隊」

春日市立白水小学校 第5学年1組 （ 日高 杏湊 ）

登下校をきっかけに

私は、登下校の時に旗持ちをしてくださっているボランティアの方たちのおかげで、あいさつができるようになりました。

私が一年生のころは、新型コロナウイルス感染症対策のために臨時休校が続き、5月末からやっと学校に行けるようになりました。登校できてうれしい反面、とてもドキドキしていました。そんな中、朝、旗持ちの方が立ってくださっていて、「おはよう」と笑顔であいさつをしてくれました。心がホッとしたのを覚えています。しかし、私は自分からあいさつをすることが苦手で、旗持ちの方があいさつをしてくれても、頭を下げることはできませんでした。

そして、学校に少しずつなれていくうちに、登下校にもなれてきて、小さな声だけど、あいさつができるようになりました。5年生になった今では、あいさつだけではなく、地域の方にお話までできるようになりました。自分の名前を覚えてもらったり、兄妹の話をしたりします。その時、楽しかったし、もっともっとお話しがたいと思うようになりました。

だから、今度は私が地域の方々へおん返しをしたいと思いました。まずは、登下校の時に旗持ちの方を見かけたら、大きな声であいさつをしたいと思います。そうすることで、旗持ちの方は、「今日も旗持ちをしてよかった。」と思ってくださるのではないかと思います。そして、地域にはたくさんの行事があります。たとえば、「クリーン作戦」や「ラジオ体操」などです。この2つには小学生になる前から参加しています。しかし、これからは、その他の行事にもできるだけ参加して、地域の一員として過ごしたいと思います。

まずは、「地域の方たちにおん返しをしよう」ということを毎日意識して、実際に行動できるようにしたいです。

旗持ちをして给你们の方たちや、地域の行事を考えてくださっている方たち、ありがとうございます！



春日市立白水小学校の記録③

第6学年地域連携カリキュラム

11月実践 総合的な学習の時間「キャリア教育」

春日市立白水小学校 第6学年2組 （ 相野 瑞季 ）

キャリア教育を通して

キャリア教育で、地域の方の人生についてお話をうかがいました。めがね会社の社長であるAさんは、めがね屋さんとして40年働いてこられました。Aさんは、フレーズ・パスカルさんの『人生はひまつぶし』という言葉から、「どうせなら、楽しいひまつぶしをしよう」と思ったそうです。そして、楽しく働くことで自分も楽しくなり、みんなもうれしくなることを「働く」というのだという事に気づきました。たくさん苦しいことがありました。めがね屋で「視力を良くするメガネを作ろう」と考えましたが「視力がもどるわけ無い」とバカにされました。メガネ協会からも仲間外れにされました。けれど、Aさんはみんなに喜んでもらうために、諦めず、信念を貫きました。すると、応援してくれる人が増えてきたのです。「自分が働くことでみんな嬉しくなるし、自分も楽しくなる」「自分が誰かのために働き、その人を喜ばせることで自分もうれしくなるんだ」と話されていて、その考えがすごいなと思いました。

私はこのお話から、誰かを幸せにしたり、喜ばせたりできると、自分もうれしく楽しくなるということを学びました。私はそのことがとてもかっこいいことだと思いました。相手を幸せにするだけでなく、自分も相手の幸せがうれしくて、その仕事が楽しくなるともっと頑張ることができ、あきらめたくなくなると思います。だから私は、私が思ったことを素直に行動に移して、相手も自分もうれしくなれることをしていきます。私は、どんな仕事もみんなの役に立っていると思いました。働く人がいないと、今のよう暮らしはできません。家を建ててくれる人、食べ物を育てて売ってくれる人、電気を管理してくれる人、水を管理してくれている人、登下校の時に見守りをしてくれる人、たくさんの方が働いてくださって、私たちの暮らしを豊かにしてくれています。働いている人達はみんなの幸せをつくらっている人達だと私は思います。私は今、誰かを幸せにするためにレベルアップするときだと思いました。まずは、お世話になった地域の方に、あいさつを忘れずにして、地域の方がうれしくなれるようなあいさつをしたいです。そして、さらに誰かの役に立ち、その人が幸せになることをしていきたいと思います。



私は小学生の頃から地域の方が企画してくださる夏祭りや餅つきは毎年楽しいイベントでした。特に夏休みのラジオ体操では中学生がお手本となってピシッと体操をしてくれました。そんな中学生の姿はとても印象的で、私も一生懸命真似をして体操をしていました。

小学生の私は地域行事のボランティアとして参加している中学生の姿に、憧れや目標のようなものを感じていたんだと思います。

そして、中学生となり小倉部伍会の一員となりましたが、1年生の時はたくさんの自治会の方の中では緊張してしまって、あまり発言することができませんでした。なので、できるだけ多くの行事に参加して、地域行事の流れや準備の仕方などを毎年経験していきました。すると、地域の方々に「お手伝いありがとう」「助かったよ」と言ってもらえることが多くなっていき、とても嬉しかったです。

また、お手伝い募集の無い「夏休みのラジオ体操」も欠かす事なく参加しました。私もそうであったように中学生に憧れを持つ小学生はたくさんいると思います。だから、地域の中学生としてきちんとした姿を見せる事は、次の世代に地域について興味を持ってもらういい機会になるのではないかと思ったからです。

そんな私も今年で3年生となり小倉部伍会長となりました。同じ部伍会の後輩もでき、会議では発言する機会が多くなりました。3年間を通してたくさんの行事に参加し経験した事が自信となり、しっかりと部伍会長として務める事ができたと思います。3年間の部伍会での活動を振り返って、私は地域行事に「毎年参加し続ける事」が大切だと思いました。参加し続ける事で出来るが増えていき、先輩から教えてもらったことを後輩へ伝える事もできました。部伍会を通して学んだたくさんのことを大切にそしてさらに成長していきたいと思います。



私は小学生の頃から地域の行事によく参加しており、毎回とても楽しみにしていました。また、登校中は地域の方々が見守りで通学路によくついてくださり、私たちは安心して登校することができました。中学生になると、通学路が違うため会う機会はあまりなくなってしまい、少し寂しい気持ちになりました。しかし、地域の行事に参加することで地域の方とよく会うことができ、お話しする機会が増えました。また、中学校では部伍会があり、その中の代表である部伍長はCS推進会議という自治会の方々と地域をよりよくするための会議を行っています。私は地域の役に立ちたいと思ったので部伍長になりました。部伍長になってからは、地域の行事などにボランティアとして参加することが多くなり、同じ学校の生徒と地域の方々と一緒に、クリーン作戦などの行事に参加をしています。また、行事に参加すると、それを楽しんでいる人々と、ボランティアとして行事を支えている中学生をよく見ることができ、そこからいろいろなことを学ぶことができました。例えば、夏休み中は、朝から公園で開催されていたラジオ体操に参加する地域の人が多く、その中でも、子供たちはしっかりラジオ体操をしていて、終わった後に景品をもらって嬉しそうにしている姿を見ることができました。また、春・秋のクリーン作戦や夏休みのラジオ体操、祭りなどのボランティアに参加する人は、1回だけでなく何回も参加をしていました。いつも笑顔で、ボランティアをすることを楽しんでいるかのように見えました。また、中学生はボランティアとして、最後まで誰にでも優しく接していて、周りのこともよく見ていました。これらを通して、行事に参加する人だけでなく、手伝っている人もとても楽しんでいるということと、中学生は参加するだけでなく、「地域住民として」という思いで手伝う生徒が増えていることも感じることができました。私も、中学生になる前までは行事を手伝ってくれる人がいることは知っていましたが、実際にボランティアをしてみると、自分たちのことだけでなく、地域の人にも楽しんでもらいたいということを考えるようになりました。私たちはもうすぐ学年が上がり、新しく1年生も入学するようになります。今の3年生が卒業し、学校生活がもっと忙しくなると思いますが、「地域住民として」の心を忘れずに、これからも、様々な地域行事にも取り組んでいきたいです。



春日中に、春日市の議員の方々が集まり、質疑応答し学べる機会がありました。そこで私たちの班は「地域の輪を深めるために、もっと認知度のある大規模な祭りを開催すべきである」と提案しました。

議員の方々は、それを実現するためには「まずは、自分たちが参加して、地域を盛り上げてください」とおっしゃっていました。

私は中学3年間を通して学んだコミュニティ・スクールの大切さと必要性を改めて感じました。クリーン作戦、ニュースポーツ、夏祭り、秋祭り、餅つき大会、その他地域ならではの伝統行事など、どれもが必要な行事だと思いました。

まずクリーン作戦では、安心安全な地域にする為に、きれいな状態を保つことの大切さを学びました。次にニュースポーツでは、幅広い年齢層の方々と交流でき、皆で喜びを分かち合えました。たくさんの地域の方々と交流することで、顔見知りができ、安心につながりました。

そして、地域の昔からの行事で、夏祭りの盆踊りや盆綱引き、秋祭りの子供みこしや太鼓では、様々な貴重な伝統行事を体験することが出来ました。

地域を盛り上げるためには、これらの行事に積極的に参加し、この先も続けて行く事が必要だと感じました。

この中学3年間のコミュニティ・スクールでの活動で、学校で学べないことを、様々な方面から学ぶことができ、心の成長にもつながり、地域に愛着がわきました。

議員の方々がおっしゃっていた通り、私たち一人一人が積極的に参加し、それを後世に伝え、伝統にしていけることが地域の輪を深め、認知度を高めることにつながる近道だと思いました。



春日市の未来のために

皆さんは警固断層について知っていますか。現在、警固断層の地震発生確率は高く、春日市も大きく被害を受けることになるといわれています。しかし、友達に話すと「なにそれ？」という人も少なくありませんでした。そこで私は、春日市民の地震に対する知識を上げなければならないと思いました。

市議会アタックの際に議員さんから聞いて、初めて知ったことがあります。それは春日市役所に「防災ガイドブック」というものがあることです。市議会アタックで同じグループだった人の中ではほとんどが知らないようだったので、中学生のほとんどが知らないのではないかと思います。だから私は、家族や友達に防災ガイドブックについて話したり、防災ガイドブックを家に置いたりして、地震対策をしていきたいです。

また、地震や火事などの災害が起こった場合にはスマートフォンで連絡したくても電波が悪くて連絡できないことも多いそうです。家族と会えないと不安や恐怖でパニックになることも考えられます。そうならないためにも、災害時にはどの経路でどこに避難するのか、どのように安否を確認するのか、持ち出しバッグの準備は大丈夫かなど、家族としっかり話して共有することが大切だと思います。

私達の周りには、災害対策のためにできることがたくさんあります。小さなことでも災害時には役立つこともあります。地震対策や防災訓練の参加をする人が増え、災害後の復興が早い春日市になってほしいと思います。



市議会の役割、私達の役割

私は今回「市議会議員にアタック」を通して、市議会が自分たちの思っている以上に市のために動いてくれていたことを知りました。しかしその一方で、市議会の管轄外にあったり、市議会では対処しきれない問題であったりと、市議会の動ける限界についても知ることができました。

また、私は今回市議会議員に対しゴミ出しの決まりについて提言しました。しかし、議員の方はこの決まりについて、提言されるまで詳しく知らなかったとおっしゃいました。こうしたことを踏まえると、市議会とはあくまで行動をおこす機関であって、問題を見つけてくれる機関ではないということが言えるのではないのでしょうか。

そうしたことを知ったうえで私は、「結局市を変えるのは私達の努力である」という結論にいたりました。

市議会だけに頼り切っていてはいけません。何を問題とし、改善すべきかを考えるのは、私達自身であると思います。市議会とはあくまで市民のための代弁者、市を改善し新しい風を吹かせるのは私達の努力なのではないのでしょうか。



春日市の未来について

私は、今回の市議会アタックを通して、春日市のいいところをたくさん知ることができ、もっと春日市と関わりを持ちたいと思えるようになりました。

春日市では、悩み事やお願い事を積極的に解決しており、春日公園にドッグランができたのは犬が苦手な人や、犬の散歩をしたい人の双方の悩みを解決するためだとわかりました。また、今回の話し合いでも、春日公園の遊び場に防犯カメラの設置を検討していただいたり、打ち上げ花火がだめならば手持ち花火をしてもいいように検討していただいたりするなど、積極的に解決案を考えてくれました。また、このような問題を考えていくうえで驚かされたのは、ゴミ箱の設置についてでした。私はゴミのポイ捨てを少なくするにはゴミ箱を設置すればいいだけではないか、と考えていました。しかし、委員の方々にお話を伺うと、ゴミ箱を設置すると家庭内のゴミを持ち込む人がいたり、きちんと分類せずに捨てる人がいたりするなど、ゴミ箱の設置によって、様々な問題が出てくることがわかりました。目の前の問題を解決するのではなく、その先も見据えて考えるのがより良い街にするうえで大切だと知りました。また、市議会委員の方々はこのような中学生の意見を真剣に考えてくれ、解決案や理由をわかり易く説明してくださるなど、とても安心できました。

春日市は沢山の人の意見を取り入れてもっとより良い街になっていくと思います。そんなとき、「自分とはあまり関係のないことだ。」となるのではなく、どうすればもっとより良くなるか、や自分のおもうことを積極的に発信するなど、主体的に行動することを大切にしていきたいです。



ボランティア活動を通して

私はボランティア活動を通して成長できたことが3つあります。

1つ目は、新しいことへ挑戦するすばらしさに気づいたことです。私は中学1年生のとき、友人と一緒にボランティア活動に参加しました。当時を振り返るとボランティアについて「何をすればいいのかわからない」という不安が大きかったことを思い出します。わからないことだらけの初めての参加でしたが、その場にいた先生や先輩が私たちに話しかけてくれたり、わからないことを教えてくれたりしました。回数を重ねるごとに他学年の先輩たちともボランティアを通じて親しくなることができました。そのうち、はじめに思っていた「不安」という感情とは真逆で「楽しい」と思うようになり、何事もチャレンジすることが大切なのだと改めて気付かされました。

2つ目は、物事をやり遂げる達成感と喜びを知ったことです。一番最初に参加した資源回収のボランティアでは、初めて地域の方々と一緒に取り組む機会がありました。回収物を運搬車に積み込む作業をしている最中に誰からともなく声を掛け合い、作業がスムーズに進むように連携がとれていました。私はそれを見て人が協力することの素晴らしさを改めて感じ、自分も地域のために、より役に立てるように活動をしように思うようになりました。活動が終わった後、地域の方から直接「ありがとう」という温かい感謝の言葉をいただき、その言葉を聞いたときに参加してよかったというやりがいを感じることができました。

3つ目は、自分の新たな居場所を見つけることができたことです。今まで資源回収や祭り、スポーツ大会など多くのボランティア活動に参加をしてきました。そうした活動を通して、年齢や立場を超えて多くの方々と交流をし、仲間と楽しみながら取り組むことで、私にとってボランティアは、自分にとって安心していられるかけがえのない居場所になりました。特に、中学生の今、普段の生活ではできないような体験を、ボランティア活動を通じて得ることができています。

このようなボランティア活動を通して得た貴重な経験を、これからの私の生活に活かしていきたいです。



ボランティア活動での成長

私は3年間ボランティア活動をしてきて成長したことが3つあります。

1つ目は、人との関わりを大切にするようになったことです。ボランティア活動を通して、自治会の方やOB・OG隊の先輩方と協力して餅つき大会やニュースポーツ大会、夏祭りなど色々な行事を盛り上げることができました。以前参加したウォークラリーの運営では、会場の準備や片付け、ウォークラリー大会を手伝う中で、地域の方から「ありがとう」と感謝されたり、ちょっとした会話などで盛り上がりたりすることがありました。このような地域の方とのちょっとした関わりや自治会の方、先輩・後輩との関わりを大切にしようと思いました。

2つ目は、感謝の気持ちを伝えるようになったことです。私たちはいつもボランティアとして参加をしています、それは事前に準備されたものに参加をしています。私たちが活動できている裏にはいつもずっと前から準備や企画をしてくださっている自治会の方、OB・OG隊の方、そして春日西中ボランティア隊隊長など多くの方がいます。このような皆さんの準備があるからこそ、活動が成り立っているのだと思います。ボランティア活動の終わりに、西中ボランティア隊の代表が、自治会の方にあいさつをする場があります。私は副隊長なので、時々そこで話す機会がありました。その時に私は、ボランティア活動で学んだ事と感謝の言葉を伝えるようにしていました。

3つ目は、行動力です。先日行われた星雲マルシェでは、終了の時間までいたので、一緒にいた友だちと片付けの手伝いをしました。これは頼まれたのではなく自主的に手伝いを始めました。私はこのように自分で考えて行動ができるようになったところに成長を感じました。

私はこの3年間で地域の人と関わりながら経験したことがたくさんあります。今後はこの経験を活かして生活をしていこうと思います。



3年間のボランティア活動を通して

私はボランティア隊隊長として成長できたことが3つあります。

1つ目は、周りに気を配るようになったことです。ボランティアを始める前は、自分のことでいっぱいでした。しかし、ボランティア活動に参加するにつれて、自分が今まで知らなかった、周りの努力に気づくことができました。また普段の学校生活でも、クラスのみんなの気持ちを考え行動し、周りをよく見て声をかけるようになりました。ボランティア活動で多くの行事を経験し、小さな子どもから高齢者の方まで多くの人と関わったことで、気配りへの意識が高くなったと思います。

2つ目は、自主的に行動する力がついたことです。例えばあいさつです。日常生活において、人と人をつなぐあいさつはとても大切です。最初は、知らない人に自分からあいさつができる人は少ないかもしれません。私も初めはなんだか恥ずかしくて、自分からあいさつをすることに抵抗がありました。しかし、ボランティア活動や生徒会活動を通して、近所の人と交流をすることで、笑顔であいさつができるようになりました。

3つ目は、感謝を忘れず活動するようになったことです。ボランティア活動の中で、イベントの企画や運営、準備に携わってきました。参加して改めて、行事やイベントが楽しくスムーズに進むのは、運営の方や事前の準備、終了後の片付けなどをしてくれるボランティアの方々がいるからだなと感じました。それから私は、周囲への感謝を忘れず活動するように心がけています。

ボランティア活動を通して、このように気配りや自主性、感謝の心を身につけることができました。高校生活でもボランティア活動で得たことを忘れずに過ごしていきたいです。



なんちゅう未来学（市議会にアタック）3年生の取り組みから

【学習の概要】

本校では、3年生の総合的な学習の時間で、市議会にアタックに取り組みました。この活動は、3年間の総合的な学習の時間の横断的な取り組みとなっています。春日市を知り、春日市を探ることで、未来を担う地域の創り手を育てる活動として位置づけています。そこで、3年生では、春日市議会議員の方々との交流を通して、春日市政や春日市の未来について考えを深め、未来の春日市への興味と関心をもたせること、2年次の学習で、取り組んだ『自治会長との討論会』での、見方・考え方を深化させ、身近な地域の課題から春日市の課題に気づかせることで、将来の春日市について考える人材を育てることを目的にしています。

【年間の主なスケジュールについて】

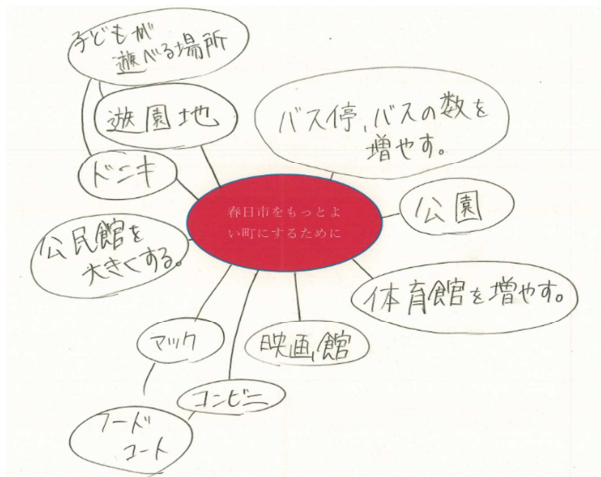
○学習の目的・活動の流れの説明
◎選挙の仕組みや選挙権についての講話
◎議会の仕組みについての講話
○春日市の課題の分類・整理
○市議会議員への質問・提言作成
☆市議会へアタック

【調べるコース】

①学校教育充実コース
②安全安心充実コース
③医療、福祉コース
④スポーツ、文化充実コース
⑤交通充実コース
⑥少子高齢化コース

【学習1 ウェビングマップを使って考えよう】

◇めあて：春日市にあったら便利な物・事を考える。



市議会にアタックを進めるにあたり、自分達の、住んでいる地域の現状を話し合い、あると便利な施設や交通環境を班で話し合い、右図のように、自由に創造させた。

【掲示した、連想させるキーワード】

学校、校区、制服、校則、通学路、子育て、保育高齢者、スポーツ、防犯・防災、環境問題、公園危険箇所、道路整備、公共施設、再開発

【学習2 選挙管理委員会・議会事務局の方の講話から学ぶ】

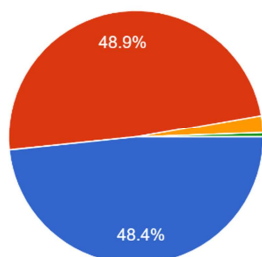
◇めあて：選挙の仕組み・議会について知ろう。

<p>【今日の講話を聞いて学んだことは？】</p> <p>国のあり方はお金の力で決める 選挙にはお金がかかる (民主主義) (国民権) — 国民が全て決める 代表者も選べば、私達は野を通じ政治に参加している。</p> <p>選挙 民主主義 国民権 3つがあるから成り立つ 選挙が正しいといふ、が成り立たない。</p> <p>投票率... 20歳以下の人が4人1人 → 若い人の意見が政治に反映されていらない。 過去に多くの苦節があって私達は投票できるようになった。</p> <p>普通選挙 平等 = 直接 = 秘密投票</p>	<p>【今日の講話を聞いて学んだことは？】</p> <p>福祉 防災、文化財保護、健康、子育て (二元代表制)</p> <p>方針を決定するのが議会 国会... 内閣大臣を決定する 地方議会... 選挙で私達が選ぶ 議員の集まり 20人</p> <p>市役所 → 議会 (話し合い) 提案</p>
---	--

[選挙の仕組みについての感想より]

[議会の仕組みについての講話の感想より]

○活動後の振り返りでは、多くの生徒が議会や選挙の仕組みに理解を示した



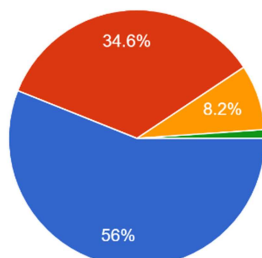
〔質問〕 選挙や議会制度の仕組みについて理解できましたか

- 4 理解できた
- 3 大体、理解できた
- 2 あまり理解できなかった
- 1 理解できなかった

【学習 3 春日市の課題調査】

◇めあて：HP・市政だより・市議会だよりから情報を収集しよう。

3時間のコース別学習に取り組み、各クラスで6つのコースを分けて、議員さんたちへの質問や提言を考えさせた。昨年度の、自治会長との討論会を経験していたため、それぞれのコースについて、班の仲間と協力して具体的な施設の現状や活動予算に関する質問等を、真剣に考えていた。



〔質問〕 自分のコースの課題や疑問点は、見つかりましたか。

- 4 見つけることができた
- 3 ある程度、見つけることができた
- 2 あまり見つけることができなかった
- 1 見つけることができなかった

【学習 4 春日市議会にアタック】

◇めあて：春日市議会議員の皆さんへ、「質問」「提言」を発表しよう。

市議会にアタックの当日は、20名の議員さんを迎え、コース別に自分たちが考えた質問や提言を発表しました。それぞれの発表者は、緊張しながらも、真剣に発表している様子で、議員さん方も一つ一つ丁寧に返答していただきました。



(上写真) 【市議会にアタックの様子】

(右図) 【少子高齢化コースの生徒資料】

出産率を低くする(1)、大学では児童手当をもらえない→目的の責任 大人
 高校3年生までの医療費無料 (15歳までが18歳までに引き上げられた) (2)
 ↳春日市だけ
 ・保育園、幼稚園は充実している(3)、子育てイベント、児童センターで絵本読みかせ
 ・待機児童0 (保育園の空きを待っている人はいる) (6)、課題は保育園代
 ・保育園の空きをエープや言計画、いきいきフェスタ (6)
 ・せんせい保育園(待機場所)に紹介する取り組み (5) やよいバスの本数も増やすためには
 ・子どもに関する事を教えてくれる春日市の「アタック」(ある、こ) 子どもの自給も運転手の数も増やせば
 広報紙よりもインターネットで若い人向けの情報を発信 (10) ならない。
 ・春日市の財政... バランスをとりながら行われている現状 (12)
 ・条例 (減税)を厚くする →豊かな生活になる (16)
 (13) 子どもの権利条例 →学童保育 (はたけがけ)
 春日市ではまだ条例はないが、
 作る予定がある。 入園料減らす? (14)
 ・子どもが強い家庭 →年当ではある
 ・免許 返納年齢を下けても努力はあまりない (16)
 ↳親しい人がアドバイスしたり、返納を進める。
 車を使わなくても良いように公共交通機関をつくり。
 女170歳以上やいいバス無料化←
 高齢者の事故率よりも若者の事故率の方が高いので、お利関係
 ない。
 (8) TNCのはじめて箱... 福岡県で行っているから、春日市民も
 利用できる。→発信
 一人の人が母にすると付いてサポートする必要がある
 シェアは赤ちゃん 寄附門 ←

（下図）【安心安全充実コースの生徒資料】

防災の電気関係について→一部の公民館は自家発電がある
 ・発電はできるようにされている
 ・火山の避難所が用意されている

春日神社前の通路は水や土地所有者の責任で片づけるが雨天
 ・災害時のペット状況は、場所が管理されているか確信は必要
 ・土砂災害の対策はされている → 貯水池もある
 ・水を管理している組合が対策

・ラインやXなどのメディアで安心安全化によりなどを発信されている（回覧板でも）
 ・回覧板で地域のことがわかる

・飲酒運転事故防止について → 交通安全協会が早く
 ・行きの警備

・ごみ状況について → お盛などではごみ出しの数を増やしている

・人が集まる場所とかでは、自販機の近くにペットボトルキャップたりを
 ・分別できるようにしている

・自転車利用道路が増えている

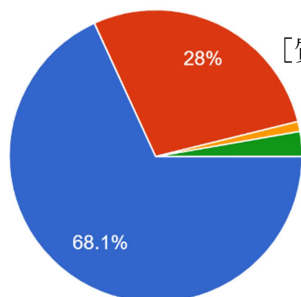
・地域の避難訓練について → 春分全体では1回行われている
 ・各区分にも1回行われている

○自転車事故対策 → ヘルメット・保険・なからスズパ 防止
 ・スタートマン（車ではあるがの速）で目視して危険さを知る
 ・を減

・医療費は科により8倍500円



【写真上：発表の様子、写真下：交流会中の様子】



〔質問〕春日市議会議員さんとの交流会は、しっかりと発表できましたか。

- 4 しっかりと発表することができた
- 3 ある程度、発表することができた
- 2 あまり発表することができなかった
- 1 発表することができなかった

◇市議会にアタックの学習を終えて◇

これからの春日市のために、今回の学習で学んだことの振り返りを紹介します。（一部抜粋）

- 過ごしやすくなるためにクリーン作戦や挨拶などを積極的に行い、明るい街にしていきたい。
- 積極的に地域参画し、春日市の現状や課題をみつけて、春日市をより良くできるようにしたい。
- 議員の役割や、市の課題を知る事ができたので、選挙の際に政策をしっかりと見て投票していきたい。
- 議員の話を聞き新しく知った市のルールを守り、良い春日市を保っていきたい。
- 少子高齢化の時代、一人の国民として投票に行く。若者の考えを国や県、市に伝えていきたい。
- 故郷として将来スポーツ選手になり有名になって春日市が住みやすいようにしたい。
- 高齢者が増え、人手不足が課題なので働きやすい社会を作っていくことが大切だと思いました。
- 予算的に難しい課題が多くあり、ただ意見を言うのでは、解決できないことがわかった。
- 疑問に思ったことや改善してほしいと思うことは、自分から積極的に調べ、声をあげていきたい。

秋のクリーン作戦の感想

コミュニティ・スクール 春日市立春日野中学校 1学年

本校では、秋のクリーン作戦に全生徒で参加しており、地域との繋がりを再確認できる場となっている。今年度の生徒の感想を、地区ごとに抜粋して掲載することとする。

惣利地区



クリーン作戦では、公園を綺麗にするためにお菓子のゴミや、落ち葉などを地域の方と協力して集めたことや新しくなる公民館を綺麗にしようという気持ちで頑張りました。全員で協力するとゴミが落ちていて汚かった公園があつという間に綺麗になって地域の方からも感謝の気持ちを伝えてくれて頑張ったかいがあったなと思いました。地域の方は私達が来る前から色々と準備をしてくださってとっても嬉しかったし掃除をしているときにも、地域の方から、「綺麗にしてくれてありがとう」などの言葉もくれて、綺麗にするだけではなくて自分の心も綺麗になったなと思いました。惣利地区のみんなは誰かに言われる前に自分から積極的に取り組んでいて一人一人が真剣に取り組んでいるところが地域の良さだと思います。これからも地域のために自分から行動をすると良いと思いました。

今回のクリーン作戦で頑張ったことは、普段は見ないような草むらの中などをよく見て、ゴミを拾ったことです。また、地域の方もたくさん参加してくださっていたので、元気よく挨拶することも頑張りました。家に弟がいたので、クリーン作戦に誘って、一緒にゴミ拾いをすることができました。平田台地区は本当にゴミが落ちてないのだなと今回のクリーン作戦で改めて感じました。また、野中生じゃない人も進んで参加していたので、思いやりのある地域だなと感じました。挨拶もたくさんの方がしていたので、明るくていいところだなと思いました。日頃から、すれ違った人には元気よく挨拶したり、地域をきれいに使ったりすることでこれからも明るくて思いやりのある地域にしていきたいと思います。また、地域の行事に進んで参加したり、祭りやイベントなどでボランティアに参加したりして、地域を盛り上げていきたいと思います。

平田台地区



春日地区



主に落ち葉などを拾いました。公園には落ち葉が多く、集めるのは大変でしたが、みんなで役割分担をしたり、地域の人たちと協力したりして清掃をすることができました。その他にも地域の人たちと話せたり、地域の人顔などを覚えたりすることができました。これからも、街中に落ちているゴミを拾ったり、地域のまつりなどのボランティア活動に率先して参加したりして、地域に貢献できるようにしたいです。

小学生の時、よく使っていたので今まで大切に扱ってくれたお礼として枯れ葉集めを頑張りました。あんまり枯れ葉が落ちていなかったの、地域の方が私達の知らない間に掃除をしていたのかなと思いました。一時間だけしか掃除ができなかったの、なんかまだ公園が綺麗じゃないなって思いました。遊んでいる時ゴミを見つけたら率先して拾って少しでも綺麗にしたいなと思いました。枯れ葉集めを自分なりに頑張ったので小学生みんなが楽しく安全に使っているといいなと思いました。

春日公園地区



春日原地区



クリーン作戦で、頑張ったことが2つあります。1つ目は隅々まで掃除をすることです。私は小学校の周りの落ち葉をほうきで取る係で、道の溝や穴の中に入っていた落ち葉を頑張って取りました。行く前は、ゴミなんて全く落ちていないのと思っていたけれど実際にやってみると、たくさんの葉っぱが落ちていて全部を集めたときはその量にびっくりしました。それぞれの場所で役割分担したおかげで、地域をより綺麗にすることができました。2つ目は地域と自分のためにクリーン作戦に参加するということです。それは、野中の生徒としてクリーン作戦をして、地域の一員として地域を綺麗にすることができてよかったと感ずることができたということです。ゴミ拾いをするのは楽しくないけれど、地域のために綺麗にしていると考えると去年よりもゴミ拾いが少しだけ楽しく感じました。いつも、自分たちを支えてくれている地域の方々への感謝の気持ちがボランティアに参加して一生懸命頑張ることで少しでも伝わっていれば嬉しいです。この事に気づくことができたおかげで私も成長できたような気がします。今回のクリーン作戦は私なりに地域のために、自分のためにたくさん頑張れたと思います。私は地域のボランティアではこのクリーン作戦くらいしかやったことなかったけれど、これからは地域のために動いてくれるみんなに混ざって、地域の一員として色々なボランティアに参加してみたいとも思いました。地域の人ともこれまであまり関わりはなかったけれど、これを機にたくさんボランティアをして、地域の行事にも参加して、もっと自分の地域と深く関わられるようになったらな、と思いました。そして、私達がこの地域のいいところをたくさん増やしていって、違う地域の人にも、春日原地区はいいな、と思えるようにしていきたいです。

ゴミを見て見ぬふりをせずに拾えたり、みんなで協力して、抜けない雑草や詰まった空き缶などを取り除いたりして街をきれいにすることができました。もとときれいな場所もあって、地域の方が定期的に掃除をしてくれているのかなと思ってすごいなと思いました。雑草とかも多くなってわけじゃなかったの、隅々まで掃除してくれているのだなと地域の人達の温かさをすごく感じました。登校中など道を歩いているときに、ゴミを見つかったら、地域の一員として、そのゴミをきちんと拾っていきなさいと思いました。

春日原南地区



春日市立春日野中学校 2年 3組 財前 優奈

春日市と沖縄県南城市を比べて

私は以前沖縄県に住んでいました。沖縄県には特別な日があります。それは6月23日(慰霊の日)です。その意味は沖縄県では戦争の悲劇が再び起こることがないように、恒久の平和を希求するとともに沖縄戦で犠牲となった御霊を慰めるためです。学校でも年に一回平和授業があります。沖縄戦の話でいつも思っていたことは、みんなが笑顔で平和に過ごせることが、一番の幸せなんだといつも思いました。絶対に戦争があってはいいないと心の底から思っています。次に沖縄では、エイサーを習います。エイサーの意味は沖縄の旧盆の最終日に踊られる先祖供養のための伝統芸能です。私は、小学校の運動会で大太鼓をしました。大太鼓はとても重たくて、踊るときには一番大変だけど、完璧に踊れると一番かっこいいです。沖縄に行くことがあったら、是非エイサーをご覧ください。とても迫力があって感動します。また、私が住んでいた南城市では世界遺産である斎場御嶽(せーふあうたき)があります。斎場御嶽は、世界遺産でパワースポットとなっています。



私は、去年春日市に引っ越してきました。春日市の伝統行事には、婿押しまつり(国指定・重要無形民俗文化財)があります。どんなまつりかというと、男子が締め込み姿になり、お汐井とりの後、宿に置かれた樽を奪おうと三期組合の青年と競い合います。子どもの樽とりが行われた後、神社鳥居前の積み上げられた、高さ約3メートルほどになる左義長火をつけます。去年の冬に見に行きましたが、寒い中池に入って樽を取り合っている姿を見て迫力があってすごいと思いました。



また、春日市には、クリーン作戦があります。それは春日市をみんなできれいにしようという目的です。クリーン作戦は、春と秋にあります。春日野中学校では秋のクリーン作戦に各地域に分かれて全校生徒が参加します。クリーン作戦を行うときに、自治会の方や育成会や子どもたちも参加して各地区に住んでいる公園をきれいにしています。クリーン作戦に参加して、私が思ったことは、最初は掃除がめんどくさいって思う人、やりたくないって思う人もいると思うけど、地域の方や友達と一緒にクリーン作戦をやっていくと楽しいって思えるし、公園をきれいにした達成感もあるから、今後もクリーン作戦には参加していきたいと思っています。

沖縄県と春日市を比べてみると沖縄県も春日市も必ず伝統行事があることがわかるし、年に一回の大切な活動もあるとわかりました。これを通して私は、どこに住んでいてもそれぞれの地域には良い伝統行事や活動があるので、私自身も将来何らかの形で関わっていきたいと思いました。

地域とのかかわりを大切に

スポーツ大会、清掃活動、夏祭り。ここ半年でこれらの行事に参加した。どれもとても楽しかったのだが、その中で一つ、感じたことがあった。それは「地域との関わり」だ。

まずスポーツ大会では、それぞれの地区での対抗戦を行った。その中で、「協力」という関わりを知ることができた。試合に勝つために互いを応援し合い、励まし合い。そうした関わりが5つの地区の士気を高めていた。

次に清掃活動では、「奉仕」の関わりを知ることができた。自分たちのためにいろいろなことをしてくれている地域に対して、感謝の気持ちを伝えていく。こうした関わりが、自分も地域の一員であるという意識を高めていった。

最後に夏祭りでは、「笑顔」にさせる関わりを知ることができた。夏祭りの最初に演奏したのだが、そこで見に来ていた人をたくさん笑顔にすることができた。そうした体験が、こちらから地域に感謝を伝えられることに気づかせてくれた。

これら3つの「協力」「奉仕」「笑顔」の関わり方に気づかせてくれた地域の行事に、ぜひとも感謝の気持ちを伝えたい。また、これらの関わり方は、日常生活でも生かすことができる。例えば、あいさつを交わすことで「笑顔」になることなどだ。

今までに示したように、私は地域との関わりはとても大切だと考える。地域との関わりを深めることは、いわば親睦を深めるということなのだ。このことを肝に銘じてこれからもいろいろな人と関わり、行事に参加し、地域との関わりを増やしていきたい。



「つながり」を大切に

私は、先日、私が住む街の地域清掃活動に参加をしました。その中で、私は花壇の手入れをする担当になりました。牛糞をまいて、大きなスコップで掘って土と牛糞を混ぜ合わせました。この活動を通して、私たちが時々遊びに行く公園にきれいな花が植えられているのは、地域の方が私たちの気づかないところで花を植えてくださっていることに気づきました。しかも使用する大きなスコップやすごく重い肥料など、花を植えることが想像以上に大変で、きれいな環境はとても苦労して作られていることに気づきました。

私は、このような人とのつながりがあるからこそ、街にある公園が自分の手で色鮮やかになったり、自分たちの手で街を清掃したりすると何気ないことでもその一つ一つの行動で街をきれいにすることもできるし、自分の心もきれいにすることができると感じました。

今回の活動を通して、改めて掃除の良さ、そして街のこと、一人一人の人間関係、人のつながり、「こと」のつながりが大切だとわかりました。

私は今年、中学三年生で受験生です。だから地域の行事にはなかなか参加することはできなくなりますが、私が活動してみたいこと、人と人とのつながりを感じる、時のつながりを感じることができそうだと思うような活動には、私からも参加してみようと思います。次に、私が地域の行事に参加するのは9月15日にある須玖北敬老祝賀会だから楽しみです。初めての参加で不安もありますが、地域のおばあちゃん、おじいちゃんと触れ合うことができたらうれしいです。

これからも、たくさんのことを学んで、地域活動にもなるべく参加して、人と人とのつながり、時のつながりを自分から積極的に関わっていきたいと思います。

このように、つながりを大切にすることで、地域は、誰もが安心して安全に過ごせるようになるはずです。このことが、社会を明るくすることにつながると私は考えています。

今後も、地域のために、社会のために、できることを考えていきたいです。「つながり」を大切に……。



地域活動に参加して

5月24日にクリーン作戦がありました。私は自分の地域の公民館の敷地内をきれいにする活動に参加しました。

私は、今回の活動で「自分で進んで行動すること」を頑張りました。自分から行動することによって花や草を抜いたり、土と肥料を混ぜたり、肥料をまいたり、植木鉢を運んだりするなど、たくさんの経験ができました。

地域の方の話を聞いて、ごみを回収する方にも気を配っているということを知りました。私は花をきれいにするのは、公民館で遊ぶ人や公民館を利用する人などが花を見て、幸せになるためではないかと考えました。虫が出てきたり、爪の中に土が入ってきたり、腰が痛くなったりして、大変なことがたくさんありました。でも、その活動をしたことによって喜ぶ人がいる、そして、大変な方を選ぶからこそ成長できることが分かりました。だからこれからも、自分自身が成長するために必要な方を選びたいです。5,6年生の時には、「花を植えるの楽しい。」とだけ思っていたのですが、中学生になって「こんなに大変だったんだ。」と分かり、びっくりしました。小学生の時は、ただ活動に参加するだけでしたが、次は参加する人を支える側になりたいです。そして、私たちが小学生だった時に支えてくれた中学生のようにしっかりとした人になりたいです。

私は、今回の活動に参加して改めて地域の一員として他の人と意見を交換し合って企画を考えたりして、活動に参加した人が笑顔になるようなことをしたいです。計画や運営をすることは難しく、今まで私は参加したことがなく、経験が少ないため、しっかり話に加わることができるかとても心配ですが、精いっぱい頑張りたいと思います。

私は、この地域が大好きです。ボランティア活動や楽しい行事がたくさんあっていつも笑顔になれるし、地域の方たちもとても優しいからです。だからこれからも、今まで地域でお世話になった分、そのご恩を返せるように活動を続けていきます。そして地域の方が創ってきたすばらしい地域をもっとすばらしくするために、地域の方々やこれまで活動のお手伝いをしてきた先輩たちにも感謝しながら、地域の一員として努力していこうと思います。

